

東 奥 日 報

2021年(令和3年)3月31日(水曜日) (1)

天 地 人

春の訪れを実感させられる壮観な眺めだった。数日前、青森市内の職場への出勤途中、北へ向かうハクチヨウの大群に出くわした。100羽以上いたであろうか。そう高くないところを飛んでいたのも、1羽1羽の姿をよく見ることができた▼この土地で暮らしていると、秋にはハクチヨウが飛来するのを、春には北帰行をしればしばし目にする。それだけに、ハクチヨウが身近な鳥になっていると言ってもいいのではないか。県内有数のハクチヨウの飛来地として知られる浅所海岸がある平内町の人たちにとっては、なおさらであろう▼1956年から55年間にわたり、同町の旧浅所小学校の児童らが続けたハクチヨウ観察の記録が、論文として英文の学術雑誌に掲載された。一つの生き物を長期的に観察したデータは珍しく学術的価値が高いという▼当時、児童らは秋から春にかけて観察し、気候や成鳥・幼鳥の羽数、生息していたエリアなどを手書きで記録した。延べ2千人の手による記録のファイルは約50冊にも。それを平内町白鳥を守る会がデータ化、八戸工業大学の田中義幸教授が英文の論文に仕上げた▼観察記録について、野鳥に詳しい県内の人たちは「これこそ継続は力なり」と評価する。さらに「そのような地道な観察が科学の基本」とも。浅所小閉校から9年。頑張った卒業生らは大いに胸を張ってほしい。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」